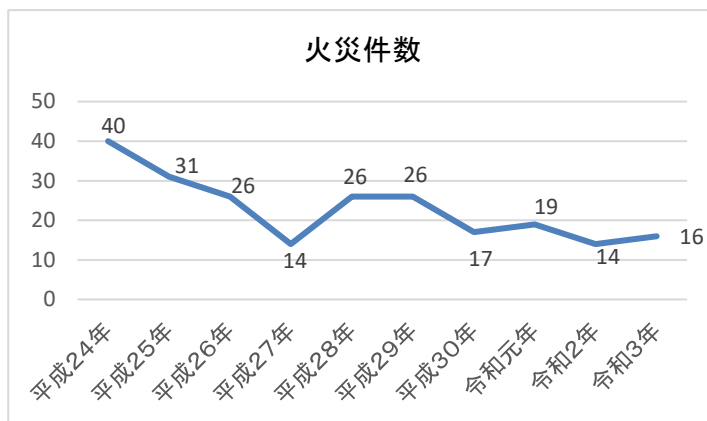


# 令和3年 犬山市火災概要

## 火災件数・死傷者数

令和3年中に発生した火災件数は16件で、前年の14件から2件増加しました。死傷者数は、死者0人、負傷者1人でした。

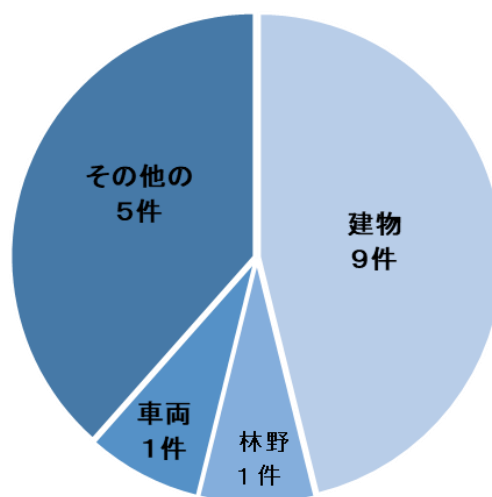
火災件数16件という件数は、消防本部が統計を開始した昭和40年からの火災平均件数38.9件より22.9件も低い件数で、火災件数は年々減少傾向にあるといえます。



## 火災種別

火災の種別は、建物火災が9件、林野火災1件、車両火災が1件、その他の火災が5件となっています。建物火災9件のうち一般住宅からの火災が2件発生し、2件とも住宅用の火災警報器は設置されていませんでした。住宅用の火災警報器は、早期に火災を発見し、被害の拡大を防ぎますので、未設置の住宅は、早急に設置をお願いします。また、住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなるため、定期的に作動確認を実施し、古くなったものは取り替えましょう。

## 火災種別



## 出火原因

出火原因のトップは、たき火と放火（放火疑い含む）が3件で、続いて電気関係とたばこが2件、その他が6件でした。たき火は、平成29年から5年連続で出火原因のトップになっています。

たき火から火災に至る経過をみると、田んぼや畑で行う野焼きや、家庭の一般ごみを焼却する行為などから付近の枯草に延焼することで火災が発生しています。

また、たき火から建物や林野に燃え移る事例や、消火を試みた人の着衣に着火し死傷者が発生する事例も過去に発生しています。

たき火は火災と隣り合わせで危険を伴う行為です。枯草は刈り取って可燃ゴミとして排出するなどし、家庭から出る一般ごみは適正に分別して決められた収集日に処分しましょう。

## 過去5年の出火原因トップ3

平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
たき火 8件	たき火 6件	たき火 7件	たき火 4件	たき火 3件
放火（疑い含む） 8件	電気関係 2件	たばこ 2件	電気関係 3件	放火（疑い含む） 3件
こんろ 3件	こんろ 1件	電気関係 2件		電気関係・たばこ 2件

※令和2年の出火原因はたき火、電気関係以外は「その他」となります。

# 令和3年 犬山市月別火災概要表（1月～12月）

## 月 別 火 災 概 要

区分 月	出火件数	火災種別				死傷者数		建物		焼損棟数	り災世帯数	前年出火件数	前年比較
		建物	林野	車両	その他の	死者	負傷者	床面積 (m <sup>2</sup> )	表面積 (m <sup>2</sup> )				
1月	3	3						10		3		3	
2月	3				3						1	2	
3月	3	1	1		1				23	1		3	
4月	1			1			1					3	△ 2
5月												1	△ 1
6月	1	1						3		1		1	
7月	1	1								1	1	1	
8月	1	1								1		2	△ 1
9月												1	△ 1
10月	2	2						8		2		1	1
11月	1				1							2	△ 1
12月												1	△ 1
計	16	9	1	1	5		1	21	23	9	1	14	2
前年	14	6		1	7	3	2	2,163	26	7	2		
比較	2	3	1		△ 2	△ 3	△ 1	△ 2,142	△ 3	2	△ 1		

## 出火原因・ワースト順位

出火原因	件数	前年件数	前年比
1 たき火	3	4	△ 1
1 放火(疑い含む)	3	0	3
3 たばこ	2	0	2
3 電気関係	2	3	△ 1
こんろ	0	0	0
その他	6	7	△ 1
計	16	14	2